



マタ（冬）の二風谷コタン。空気の澄んだ厳冬期は森林や河川、コタンの景観が良く映える

二風谷コタンから感じる冬の暮らしの知恵

11 月後半以降、二風谷コタン周辺でも雪が降るようになり、すっかり白い冬景色になりました。北海道の暮らしやアイヌの文化継承を考える上で、冬を生きる知恵は欠かせません。

北海道で親しまれている料理に「鍋料理」があります。アイヌの伝統的な料理もその多くが鍋料理で、チセの囲炉裏に吊るした鉄鍋で、ルルやオハウと呼ばれる汁ものなど様々な料理が作られました。とりわけ魚を具材にしたチェプルル（魚汁）は、日常的に良く食べられた料理として平取町に継承されています。冬は肉や魚などの保存に向いています。冷蔵・冷凍が容易で、森林に行ってもクマやハチ、ダニなどに出会うこともほぼないことから、比較的安全に狩猟を行うことができます。チセの囲炉裏で火にあたる暮らしは、世代間でしっかりと交流する機会にもつながります。冬の暮らしは屋内で薪の火を絶やさないことが大事です。かつてはおじいさんやおばあさんが火の管理を担うことが多く、孫の面倒を見ながらウパシクマ（言い伝え）やユカラ（英雄叙事詩）を語り聞かせたと言われています。

雪に覆われた二風谷コタンを散策しながら、ぜひ北海道に受け継がれた暮らしと知恵に想いを馳せてみてください。文化的景観の保全は、地域文化の継承に寄与するだけでなく、住民が地元の良さを再認識し、改めて郷土学習を行っていくためのツールになります。地域らしさを大事にする意識は、今後一層まちづくりのキーワードになっていくと考えられます。（長田佳宏）



アタッ（開き干しのサケ）づくりの様子：二風谷工芸館の軒下にて

沙流に伝わる アイヌの着物の継承

終了しました
ご協力ありがとうございました
—想いと技と—

開催期間：10月8日（火）～12月8日（日）

本展示では、この地域において現在活動している作り手9人をクローズアップし、沙流川流域に伝わる様々な着物を通して、先人たちより受け継がれる技や想いを紹介しました。来場者の方からは「作った人の顔や人柄まで一緒に分かるような展示でした」「一人ひとりの工芸家の思いが分かりました」などの感想をいただきました。



特別展の様子

また、特別展関連イベントとして、『フィシスの波文』上映会と講座『映画でめぐる文様の世界—アイヌ文様と手仕事』、『アイヌ文様をつくってみよう』を行いました。（藤川涼子）



半てん・マタンプシ
関根真紀



カパミブ 貝澤かつえ



アットウシ反物 貝澤雪子



アットウシ反物 貝澤美雪



チカラカラペ 萱野れい子



ルウンペ 高野啓子



チカラカラペ 藤谷るみ子



アットウシジャケット
柴田幸宏



チカラカラペ 貝澤美和子



関連講座 講師：河合早苗



関連イベントで文様を描く様子

※敬称略・順不同

博物館公式Instagramのお知らせ

博物館の公式Instagramをはじめました。イベント情報や展示資料の紹介、季節の風景などを発信しております。

ぜひフォローをお願いします。

@nibutani_ainu_museum



NIBUTANI_AINU_MUSEUM



◇沙流川歴史館特別展・講座終了

沙流川歴史館では、令和6年10月1日（火）から12月1日（日）まで特別展「野生動物とわたしたちー狩猟と駆除と共存ー」を開催しました。ヒグマやエゾシカ、アライグマなどの生態や野生動物による社会問題を取り上げたパネルや野生動物の毛皮などを展示しました。期間中約5,500の方が来場し、「実際に動物の毛皮に触れることができて良かった」などの感想が寄せられました。

また、10月13日（日）には、関連事業として東北芸術工科大学名誉教授の田口洋美氏を講師にお招きし、「変わりゆく野生動物と人間の関係：Zoning System」と題した講座を開催しました。オンラインも含め57名の参加があり、「人間社会が変化し野生動物との距離が近づいている」「規制があるので難しいが、野生動物を寄せ付けないためには犬の放し飼いが効果的」など、講師の興味深い話に耳を傾けていました。

ご来場いただいた方、ご協力いただいた関係者の皆さまに感謝します。

（津川貴晃）



見学風景



西学芸員の展示解説



ヒグマの毛皮を試着できる体験も行いました。とても好評でした



毛皮に触れている様子



講師の田口洋美氏



講座の様子

◇沙流川歴史館一般利用のご案内

沙流川歴史館では、当館や町の主催事業以外の期間、一般の団体・個人の方も利用できます。絵画、写真、書道、工芸品などの作品展示や、講座や公演会など開催希望がありましたら、沙流川歴史館までお問い合わせください。

※問合せ先 電話：01457-2-4085 メール：sar.muse@town.biratori.lg.jp

学芸員のへや②

わたしと 木彫り熊



学芸員のへや

前回からはじまった新コーナー「学芸員のへや」。今回は、博物館の学芸員・守屋が担当いたします。



木彫り熊（平取町・萱野茂二風谷アイヌ資料館）



木彫り熊（旭川市・川村カ子トアイヌ記念館）

私は、アイヌ民族の物質文化、とりわけ木彫り熊について研究しています。木彫り熊が民芸品・おみやげ品・芸術品として、時代とともにその価値がどのように変化してきたのかをテーマにしています。

木彫り熊と聞くと、多くの人が北海道観光を代表するおみやげ品や民芸品・工芸品を思い浮かべるのではないのでしょうか。例えば、鮭をくわえたり、背負ったりしている熊や親子熊などが代表的ですが、それだけにとどまりません。ウイスキーを抱えたものや熊マスクと呼ばれるもの、今にも動きそうなほど写実的なものから、木の塊のようにみえる抽象的なものまで、木彫り熊の造形表現は多岐にわたります。

私の「^{ふたみぐん やくもちょう}押し」熊は、^{しば}二海郡八雲町の^{ざき しげゆき}つくり手、柴崎重行氏の熊です。柴崎氏が本格的に木彫り熊を制作しはじめたのは、第2次世界大戦後のことです。

当初は毛彫り（毛を一本一本彫る）をしていましたが、次第に面彫り（手斧やくさびで割った面を重視した彫り方）へ変化していきます。柴崎氏の面彫りは、ハツリ彫り・柴崎彫りと呼ばれ、晩年の作品では表現が極限まで抽象化され、目を1本の線で表現するなど、柴崎氏独自の世界観が確立されました。



柴崎重行氏作の木彫り熊
（八雲町・木彫り熊資料館）

現在、木彫り熊は「第3次木彫り熊ブーム」と呼ぶことができるほど、展示イベントや書籍などで取り上げられ、再注目されています。2017年には、沙流川歴史館でも「クマの意匠展」が開催されました。

（守屋李佐子）

次回

「学芸員のへや」は歴史館・西と博物館・守屋の2人が交代で担当しています。

今回は、歴史館・西学芸員の担当です。

次の守屋担当回では、木彫り熊のルーツについてお話しします。お楽しみに！

アイヌ語を覚えてみよう ㊤

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回は、冬に関するアイヌ語の表現を、萱野茂のアイヌ語辞典（三省堂）から紹介します。

アエカンパクコ ポロ ウパシ アシ

予想もしないことに大雪が降った



クメライケ ナ ホクレ アペアリ

私は寒いから早く火を燃やしてくれ



ホクレ アペサムン エク ワ アペクル

早く火の前に来て火にあたれ

イヨーハイ アペ マウ ネノ サパハ マウエアン

大変だよ！火の熱のように頭に熱がある



マタ アトウイエ チクニ アナクネ オウポポリンネ プ ネ

冬に伐採した木には若生えが生える



カバラ ウパシ カ タ イセポ アピリ シッチニナニナ ワ アン

さっと降った雪の上にウサギの足跡がこちゃこちゃあった



ノキペコンル アウク コロ スイ メアン ペ ネ ナ

イテキ ウク

つららを取るともう1度寒くなるものだから取ってはならない



萱野茂のアイヌ語辞典にはいろんなアイヌ語用例が記載されており、それらを読むだけでも面白くて、アイヌの知恵を知ることができます。町立図書館にも置いてありますので皆さんも是非チェックしてみてください。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）

沙流川流域の野鳥たち No.13

スズメ目シジュウカラ科

観察難易度：★★☆☆

ヤマガラ

学名：*Sittiparus varius* 漢字名：山雀

英語名：Varied Tit

アイヌ語名：エヌムノヤ【enum-noya】など

大きさ 全長14cm（スズメと同じくらい）

体重 17～22g 翼開長 22cm

鳴き声 さえずり「ツーツービッ、ツーツービッ」

地鳴き「ニーニーニー」「ジェージェー」

特徴 雌雄同色。背・翼の上面は灰色、腹は褐色。

頭は黒色と白っぽい淡い褐色の模様。カラ類の中では色鮮やかでわかりやすい。

生息環境 平地から低山の広葉樹林を好むが、公園など人が近づきやすい場所に住むことも。

分布 ほぼ全国的に分布。北海道は道南では多く見られるが、道北や道東には少ない。一年中いる鳥。

行動 昆虫や木の実などを食べる。秋には幹の割れ目などに木の実を貯めて冬に備える。ドングリなどを脚ではさんで、くちばしで割って食べる。

樹洞や他の鳥があけた穴などに、コケ、獣毛を敷き詰めて巣をつくる。人慣れしやすく、人間に近寄って手に乗ったりもする。間近で観察することの出来る鳥。

1980年頃までは、全国各地で飼育し芸を覚えさせることも行われていた（現在は野鳥の飼育は法律で禁止されています）。

（西 希）



木の実をたくわえるヤマガラ
の動画を見ることができます
(ウィキペディア・
コモンズより)

アイヌ文化との関わり

荷葉村（現 平取町字荷葉）の平目カレピアさんが語った口承文芸のなかにヤマガラが登場します。

沙流川の水源地に化け物のクマが出て人間たちを殺しているという噂が流れます。ヤマガラはそれを聞いて人間に同情していましたが、ついに刀を研いでクマのもとに向かい、クマの両目を刀で突いて退治し住みかに帰りました。それから人間は、自分の家にヤマガラが入ってクマの肉などを食べても許すようにしたといひます。

（久保寺逸彦編著 『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』より）

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

【アイヌ民族と近代開拓】

テーマ1：学校(7)
長知内小学校①

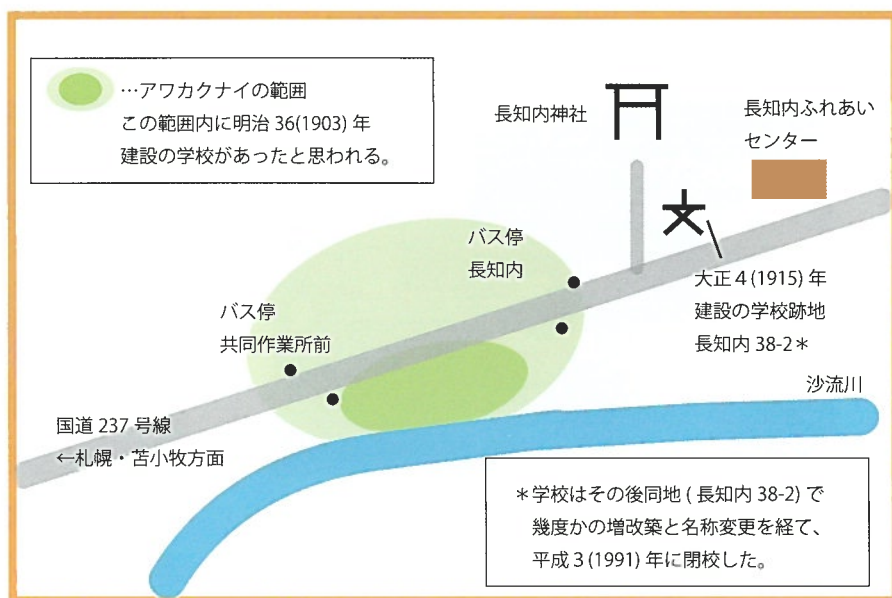
おさちないむら

長知内村は明治 35 (1902) 年 1 月に佐野嘉吉を校長として迎え、同氏宅を仮校舎として長知内簡易教育所を開設しました。児童数は 4 名でした。仮校舎は狭く通学が不便であったため、明治 36 (1903) 年に長知内村字アワクナイ (現道南バス停「共同作業所前」～「長知内」付近一帯、以下の地図参照) に茅葺屋根の校舎が建設され、大正 4 (1915) 年まで使用されました (表 1)。長知内簡易教育所は校舎の老朽化と児童数が増加して 8 名になったことに伴い、大正 4 (1915) 年には長知内村トナイ原野 102 番地 (現平取町字長知内 38-2) に新校舎が建設されました (地図、表 2)。下記の表 1 と 2 を比較すると移設後の学校は教室や敷地が広がっているほか、新たに植樹地が設けられていたことが分かります。

(廣岡絵美)

(表 1) 明治 36 (1903) 年建設
長知内簡易教育所 (茅葺屋根)
校舎・敷地等面積

敷 地	一段一畝二十歩 ($\approx 1355 \text{ m}^2$)
教 室	十四坪 ($\approx 46 \text{ m}^2$)
運動場	百 坪 ($\approx 330 \text{ m}^2$)
教員室	七 坪 ($\approx 23 \text{ m}^2$)
校 園	一段歩 ($\approx 1190 \text{ m}^2$)



(表 2) 大正 4 (1915) 年建設 長知内簡易教育所 (桤葺屋根) 校舎・敷地等面積

玄 関	四坪 ($\approx 13 \text{ m}^2$)	教 室	二十坪 (工事一三四四円也) ($\approx 66 \text{ m}^2$)
便 所	三坪 ($\approx 10 \text{ m}^2$)	控 所	十二坪 ($\approx 40 \text{ m}^2$)
事務室	三坪七合五勺 ($\approx 12 \text{ m}^2$)	校舎建坪合計	四十二坪七合五勺 ($\approx 141 \text{ m}^2$)
敷 地	四段六畝十九歩 ($\approx 5417 \text{ m}^2$)	実 習 地	一段歩 ($\approx 1190 \text{ m}^2$)
校 園	二畝歩 ($\approx 198 \text{ m}^2$)	植 樹 地	一町歩 ($\approx 9917 \text{ m}^2$)

(表 1・2) 長知内小学校九十周年記念協賛会記念誌部会『長知内小学校九十周年記念誌 回想 90' 揺るぎなき道』(1991) 参照

平取町開拓財産展示施設 (平取町字荷負 77-3) 見学のご案内

【開館日時】 *変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日 (祝日休館) 8:45～12:45

上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■休館のお知らせ

4月15日までの毎月曜日は定期休館になります。

萱野茂二風谷アイヌ資料館

■冬期休館（4月15日まで）

問合先：TEL 01457-2-3215

沙流川歴史館

■企画展

『過去から今へ』

—平取の発掘とまちづくり（仮）』

期 間：4月22日（火）～6月8日（日）

場 所：沙流川歴史館企画展示室

休館日：毎週月曜日※（4/28・5/5は開館）

移動展：ふれあいセンターびらとり

期 間：6月10日（火）～6月29日（日）

平取町アイヌ文化情報センター（二風谷工芸館）



工芸館には、アイヌ工芸の販売コーナーがあります。伝統工芸師の展示販売や若い作家たちの作品を購入することができます。



木彫・刺繍制作体験も行っています。主に修学旅行の団体が利用しています。

受付：二風谷アイヌ文化博物館

受付人数：10名以上 ☎01457-2-2892

2025年1月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

2025年2月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	1

2025年3月

日	月	火	水	木	金	土
23	24	25	26	27	28	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2025年4月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

● 博物館・歴史館 休館日 ● 歴史館休館日

シシムカ文化財だより No. 25

2025年1月31日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

